

令和元年6月27日現在

機関番号：55201

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2016～2018

課題番号：16K16797

研究課題名（和文）クィアとエコロジーの交錯と北米のマイノリティ女性作家たち

研究課題名（英文）The Crossover of Queer and Ecology and Female Ethnic Minority Writers in North America

研究代表者

早水 英美（岸野英美）（Hayamizu (Kishino), Hidemi）

松江工業高等専門学校・人文科学科・准教授

研究者番号：90512252

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,700,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、北米のマイノリティである女性作家の多様な文学作品をクィアとエコロジーの観点から考察しながら、北米における現代女性文学の新たな読みの可能性について検討した。成果としては、論文2本、インタビュー1本、論文集2冊とカナダ文学史に関する翻訳書1冊を共著・共訳出版した。また国内外で開催された国際会議で3回の発表を行い、カナダ人作家と台湾の環境文学研究者をそれぞれ招聘し、特別講演やシンポジウムを実施した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

クィアとエコロジーの観点から北米のマイノリティ女性文学作品を分析することは、私たちが人種や性、環境をめぐる問題を抱える複雑で多様な社会を生き抜き、新たな時代の社会や人の有り様について検討する上で示唆を与えられるものと確信している。

研究成果の概要（英文）：The project's aim was to examine various texts written by female, ethnic minority writers in America and Canada from queer and ecological perspectives, and to consider new possibilities of reading in contemporary female literature in North America. The results of this research are included as two research papers, one article of an interview, two co-authored books, and one co-translated book on the history of Canadian Literature. Also, three presentations in international conferences held inside and outside of Japan were given. Moreover, a Canadian writer and an ecocritic from Taiwan were invited as special guests, and a special lecture and symposium were held and cooperated on.

研究分野：北米の環境文学

キーワード：環境文学 北米の女性作家 エコクリティシズム

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

研究代表者は、平成 26 年度に採択された科研費研究課題「日系アメリカ文学にみる環境思想 - 食と農業を中心に - 」において、日系作家が作品に描く食や農業に着目しながら、彼らの環境思想を考察した。その一部として、オゼキとマスモトの作品に共通する桃の文化的な意味を捉えた上で、桃を通してそれぞれの作家の人種的アイデンティティが描出されていることや、現代アメリカのフードシステムを支配する側への抵抗を示すものとして桃が効果的に描かれていることを論じた。彼らの視点は、白人中産階級層には見られないものであり、食や農業の問題が人種的、民族的マイノリティの権利回復を目指す倫理問題をテーマとする環境正義に深く結びついていく。しかし、環境正義については、レイチェル・スタインが『環境正義の新展望』(2004) の中で、従来の議論にセクシュアリティの視点を新たに加えることが不可欠であると論じるように、エコクリティカルな日系アメリカ文学研究においても、セクシュアリティをめぐる問題に対する作家の意識を探り、考察を深めることが重要である。一方で、研究代表者は平成 27 年度、日系カナダ人作家ヒロミ・ゴトーをゲスト・スピーカーとして日本へ招聘し、特別講演を行った。“Body, Food, Land: An Ecology of Writing”という題目の講演において、ゴトーは自ら複雑な性的アイデンティティを持つクィア作家であると公表し、その独自の視点で食と女性の身体との結びつきや、生き物や環境との関わりについて議論した。本講演から、クィアとエコロジーの観点から作品に描かれる人間と環境との関わりを検討する必要性が生じた。

2. 研究の目的

本研究では、クィアに関連するエコクリティシズムを借用し、北米の日系をはじめとするマイノリティの女性作家の作品分析を行う。また、それぞれの作家の独自性を明らかにし、クィアとエコロジーが交錯する文学の広がりを示す。

3. 研究の方法

まず、カナダの環境をめぐる文学作品を扱う上で、関連する文学作品を概観することが重要である。研究代表者は以前から取り組んできたカナダの環境文学に精通するクリストフ・アームシャー(インディアナ大学教授)の論文翻訳を平成 28 年度に完成させ、カナダの環境文学の源流と、カナダ在住のオゼキやウォンを始めとする作家との繋がりを探った。

また、平成 28 年度と 29 年度はガードやシーモア、モートンなどのクィアに関連するエコクリティシズムの有効性を確認した。その中で、前回採択された科研課題を進める中で扱った日系作家ルース・オゼキの長編小説『イヤー・オブ・ミート』の作品分析にガードの議論の一部を加えた。本作品には、人間の生殖器官に影響をもたらす環境ホルモンに警鐘を鳴らすアフリカ系アメリカ人とヨーロッパ系アメリカ人のレズビアンカップルが登場するが、これは、夫のDVに起因する男性への嫌悪感と女性同士の強い絆への羨望のため異性愛から同性愛へと移行した可能性の高い日本人アキコを後に二人が受け入れることを含めて、ガードのクィア・エコフェミニズム論、つまりクィアと女性と非白人の連携に向かっていくと考えられる。

オゼキの作品分析終了後、オゼキと同じく日系作家であるヒロミ・ゴトーのデビュー長編小説『コーラス・オブ・マッシュルーム』の解読を始めた。本作品におけるヤマンバの物語の語り直しは、自然と女性の身体を一体化させるエコフェミニズムへの親近性を示している。また、ユキオンナの語り直しには、自然が女性同士の繋がりに介在していることが暗示されており、オゼキの作品と同様に、クィア・エコフェミニズム論を想起させる。さらに、バンクーバーでの現地調査を行い、ゴトー本人を訪ね、環境や性をめぐる問題に対するゴトーの立場や考えをうかがった。この交流を通してレズビアンズムの関係性を彷彿とさせるゴトーの 2 作目の長編小説『カップ・チャイルド』の重要性を確認し、本作品の北米の環境文学の系譜への位置付けを行った。特に本作品に登場するカップをモートンが議論する「人間ならざるもの」としてとらえ、自然の生き物としてのカップと人間である語り手の異種で雌性の関係性が、語り手と家族や友人の女性たちとの複雑な関係性ととともに、極めて象徴的に描かれていることを明らかにした。

最終年度は、海外の研究者の協力を得て、エコクリティシズム研究学会において本研究課題に関する国際シンポジウムを開催した。その後、レズビアンのアフリカ系作家オードリー・ロードが実際に癌と向き合い、闘った日々を綴った『癌の日記』を取り上げ、高度な医療技術を用いた癌治療の女性の身体への影響とロードのアイデンティティ探求についてアメリカでの現地調査も含めて考察した。さらにバイセクシュアルである中国系カナダ人作家リタ・ウォンの詩集『フォーリッジ』を解読した。生態系の危機と、資本主義をめぐる倫理的な問いをウォンが詩の中でどのように表現しているかを考察した。最後にチカーナ作家アナ・カスティヨの『神から遠く離れて』の中の人種差別と環境汚染、同性愛者に対する偏見と差別の問題の関係性を明らかにすることを目指した。

4. 研究成果

平成 28 年度はアームシャー著「ヴィクトリア朝のナチュラリストによる著書」の翻訳が『ケンブリッジ版カナダ文学史』の一章として彩流社から共訳出版された。また、オゼキの作品考察を論文として纏めた。オゼキは『イヤー・オブ・ミート』の中にみられる女性たちの結びつきを通して、異性愛者と同性愛者、抑圧する男と抑圧される女、自然と人間の二項対立構図を

脱構築し、多様な人間と自然が共存する世界を希求していると考えられる。最終的にこの論文は共著『エコクリティシズムの波を超えて』の一章として掲載された。

平成29年度はゴトーの『コーラス・オブ・マッシュルーム』を分析したものを纏め、国際学会で口頭発表し、同年、論文「ヒロミ・ゴトー作品における規範解体——『コーラス・オブ・マッシュルーム』のキノコ表象をめぐって」として学術雑誌に掲載された。また、華人系カナダ人作家マドレン・ティエンを招聘し、インタビューを行った。カナダ総督賞を受賞した長編小説『私たちに何も言わないで』の歴史的背景や、女性をめぐる問題、特に性的マイノリティ女性について考えをうかがった。本インタビューは本研究をすすめる上で大変参考になった。

最終年度には、加藤ダニエラ氏（京都工芸繊維大学）とブラジルのゼリア・ボラ氏（パラíba大学名誉教授）、台湾のセレナ・チョウ氏（中央研究院）の協力を得て開催された国際シンポジウム“Feminism, Queer Ecology, and Ecocriticism: Cultural Perspectives and Cross-Fertilizations”で、登壇者の一人として『カッパ・チャイルド』についての発表を行った。チョウ氏に関しては本科研の助成を受けて招聘した。チョウ氏は日系アメリカ人作家マスモトの『パーフェクト・ピーチ』を取り上げ、マスモトが近年、作品に描く官能的な桃にはエリート主義的な傾向が見られると指摘する一方で、本作品には父の有機農家としての志を受け継ぎ、レズビアンであり日系とヨーロッパ系の混血として生きる娘ニキコへの深い理解や家族愛や、社会的正義と共同体連携のための戦略が効果的に描かれていることを論じられた。本シンポジウムの発表原稿を論文化したものは『エコクリティシズム・レビュー』第12号に掲載されることになっている。また、この論文にさらなる加筆修正を施した「海を越えたエコモンスター——ゴトーの『カッパの子ども』における種とセクシュアリティの交錯」がボラ氏、チョウ氏の論文（翻訳）とともに共著『トランスパシフィック エコクリティシズム』の一章として掲載され、間もなく出版される。さらに、ロードとウォンの作品分析を纏めたものを、The 40th Annual Southwest Popular/American Culture Association (SWPACA) Conference 中の“Eco-Criticism & The Environment”のセッションで発表した。カスティヨの作品分析は期間内に十分行うことができず、成果を出すことができなかったが、今後も考察を続けていく。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計3件)

- (1) 岸野 英美 「エコロジー、カルチャー、セクシュアリティ——Hiromi Goto の *The Kappa Child*」『エコクリティシズム・レビュー』第12号、2019年(pp.38-49)。
- (2) Hidemi Kishino “Culture, History, and Women Interwoven by Writing: A Conversation with Madeleine Thien” 『カナダ文学研究』第25号、2017年(pp.11-18)。
- (3) 岸野 英美 「ヒロミ・ゴトー作品における規範解体——『コーラス・オブ・マッシュルーム』のキノコ表象をめぐって」『欧米文化研究』第24号、2017年(pp.41-58)。

〔学会発表〕(計3件)

- (1) Hidemi Kishino “An Ecological Rereading of Ethnic Minority and Queer Writers,” The 40th Annual Southwest Popular/American Culture Association (SWPACA) Conference, Feb. 2019 (The Hyatt in Albuquerque, New Mexico).
- (2) Daniela Kato, Zelia Bora, Serena Chou, Hidemi Kishino, International Symposium: “Feminism, Queer Ecology, and Ecocriticism: Cultural Perspectives and Cross-Fertilizations,” The Society for Ecocriticism Studies in Japan, 31st Annual Conference, Aug. 2018 (Ehime University).
- (3) Hidemi Kishino “Representation of Border in Hiromi Goto’s Chorus of Mushrooms,” The Uncanny in Language, Literature and Culture, Interdisciplinary Research Foundation and London Centre for Interdisciplinary Research, Aug. 2017 (University of London).

〔図書〕(計3件)

- (1) 岸野 英美 「海を越えたエコモンスター——ゴトーの『カッパの子ども』における種とセクシュアリティの交錯」『トランスパシフィック エコクリティシズム——物語る海、響き合う言葉』彩流社、2019年。
- (2) 岸野 英美 「ルース・オゼキの『イヤー・オブ・ミート』とメディア」『エコクリティシズムの波を超えて——人新世の地球を生きる』音羽書房鶴見書店、2017年、pp.155-166。
- (3) 岸野 英美 (翻訳)「ヴィクトリア朝のナチュラルリストによる著書」『ケンブリッジ版カナダ文学史』彩流社、2016年、pp. 195-213。

〔産業財産権〕

○出願状況(計0件)

名称:

発明者:

権利者:

種類：
番号：
出願年：
国内外の別：

○取得状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究分担者

研究分担者氏名：
ローマ字氏名：
所属研究機関名：
部局名：
職名：
研究者番号（8桁）：

(2)研究協力者

研究協力者氏名：シューファ・セレナ・チョウ 准研究員（中央研究院、台湾）
ローマ字氏名：Shiuhhuah Serena Chou (Academia Sinica, Taiwan)

研究協力者氏名：ゼリア・ボラ 名誉教授（パライバ大学、ブラジル）
ローマ字氏名：Zélia Bora (Federal University of Paraiba, Brazil)

研究協力者氏名：作家 ヒロミ・ゴトー（カナダ）
ローマ字氏名：Hiromi Goto

研究協力者氏名：作家 マドレン・ティエン（カナダ）
ローマ字氏名：Madeleine Thien

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。